

令和5年度 第2学期終業式

R5.12.22

今日で、85回、登校日があった2学期が終わりです。

2学期の始業式では「 $1 + 1 = 2$ ではない。3にも4にもなる。これを???と言う。学校に来て勉強するのは、このシナジーを創り出すためです。学級のみならず一つでも多くのシナジーを創り出し、充実の2学期になるよう頑張りましょう。」と話しました。

さて、どんな85日を過ごしたのでしょうか？果たしてシナジーは創り出せたのか？その話は2つ目にして、先に、冬休みの話から始めます。

夏休み前にはよく「夏休みにしかできないことをどんどん体験してみましょ」などと言いますが、それと同じように、冬休み前には「日本の伝統的な行事や文化、習慣を体験できる絶好のチャンスです。家族の一員、地域の子供として積極的にかかわってみましょ。」などとよく言います。夏休みと冬休みでは、同じ長い休みでも、その目的は違うということです。

じゃあ、その年末年始、冬休みの期間中にある日本の伝統的な行事や文化って何か、考えていきましょう。まず質問から。

「クリスマス」って知ってる人、手を挙げて。

「どんと祭」または「歳の神」って知ってる人、手を挙げて。

はい、そういうことです。どちらも神様と関係あるものですが、名前からわかる通り、「どんと祭」「歳の神」が日本の神様、庭坂でいうと鷲神社の神様と関係あるお正月の行事です。鷲神社のどんと祭は、1月15日にあるようですから、未体験の人はぜひ行ってみたいものです。古いお札などを燃やしたどんと祭の炎で焼いた鏡餅を食べると、頭がよくなるとか、病気をしないなどと子供のころ教えられました。そんなのは何の根拠もない迷信とよばれるものですが、そういう日本の年末やお正月の文化、風習を知ること冬休みの大切な役割だということです。

地域の行事ばかりではありません。高橋家とか鈴木家とか犬神家とか、校長先生だったら長澤家とか、自分の家に伝わる、昔から続けてやっている、年末やお正月の習慣、文化というものもあるはずですよ。

校長先生も子供時代に冬休みを何回も経験してきてますから、手伝いをしたり、家の人がやることを見たり聞いたりして覚えたこと、そして、中には自分が大人になっても長澤家の習慣として続けていることもあります。

12月27日ごろには障子の張替えを小学生のころから手伝っていました。糊でふにゃふにゃになった障子紙はどうやればうまく切れるのか、どうやればしわしわにならずにピンと張れるのかを覚えました。

12月28日は、器械で搗く餅ですが餅を搗く日と決まっていた。それを、5年生が先週見たように、粉をつけて丸めて鏡餅にしたり、伸ばして押し餅にするのを手伝いました。

12月30日は、松前漬、福島のイカニンジンみたいなものですが、それに入れるスルメイカと昆布を切るのが子供のころの先生の仕事でした。固いスルメを10枚も20枚も細く切るので手が痛くなる仕事でしたが、5回に1回ぐらいスルメを盗み食いしながらやって、なかなか楽しい仕事でした。

大晦日の夜は、紅白歌合戦の五木ひろしや八代亜紀の歌を聴きながら、28日に作った伸し餅を切るのが仕事でした。餅はもう固くなっているので、手の平に真っ赤に包丁の峰の跡がついてしまう、これも手が痛くなる仕事でした。

また、こういう年末ならではの仕事ばかりではなく、年末、お正月は食べるものにも習わしがありました。

大晦日の夕飯は、ご飯とみそ汁のほかに、新巻サケ（サーモンの焼き魚ですね）、それとこづゆです。余談ですが、焼き魚に使ったサケの頭と尾びれは神棚にお供えしました。しかも尾びれを口にくわえさせた奇妙な形でお供えしました。なぜそうするのか聞いたことはありませんでしたが、大晦日の夜のごちそうを、そうやって神様にお供えして、今年もありがとうございます、来年もよろしく願いしますとお祈りするものなんだなあと感じていました。

そして、年が明けて1月1日の朝はそばです。校長先生が生まれ育った会津では、12月31日に年越しそばは食べません。元日に食べます。これを元日そばと言います。2日は餅、3日はとろろご飯と決まっていました。6年生が修学旅行で見学した県立博物館には、このことが模型で展示・説明がされている所があったので、見た記憶がある人もいるんじゃないかな。

5年生が収穫祭で作った鏡餅は3学期に玄関に飾りますが、2段重ねの鏡餅の上に乗せるものは・・・

どっち？

そう、こっちですが、この果物の名前が重要なんじゃない、色が重要なんです。日本の風習ですから「オレンジ色」ではだめなんです。「橙色」のものに乗せるのが大事なんです。それには意味があって、自分の家が先祖「代々」引き継がれて、家族みんな長生きできますようにとの願いを込めて「先祖代々」の「だいたい」と「橙色」の「だいたい」をかけて、これ（みかん）に乗せるんです。

このように、日本や自分の住む地域、自分の家には、それぞれいろいろな文化や習わしがあるということです。ですから、毎年、少しずつそういうものを見たり聞いたり、体験したりして覚えていってほしいということです。いつもいつもゲーム、スマホ、タブレットなんてものとかかわりばかりでは冬休みの本当の目的に近づけません。

では、2つ目。「果たしてシナジーは創り出せたのか」の話。

始業式の話の中で、学年発表会の取り組みなどがシナジーを創り出す一つのチャンスだと言いました。各学年の発表を見た時、それまでの準備や練習の中で、友達とどうすればもっとよくなるか一緒に考えて発表を作り上げてきたのだろうなあと感じる場面をたくさん見ました。発表後の振り返りカードなどを見ると・・・

「一生懸命練習したから、いい発表ができた。2年生みんなでシナジーを創れてよかった。」というのがありました。他には

令和5年度 第2学期終業式

R5.12.22

「タイミングも完璧でした。みんなでもたシナジーを創って発表したいです。」というのもありました。シナジーを創り出せたと自信を持ち、次へのやる気も生まれたことがわかります。別な学年では「大変だったけど、今思えば、みんなと考えて練習するのは楽しかった」とか「セリフを間違えてアドリブの嵐だったけど、それに対応してくれた友達に感謝。いろんな人に助けられ、楽しくて最高の発表会だった」というのもありました。シナジーを創り出せた満足感や達成感を感じていることがわかります。自分以外の方がたくさんいる学校に来て勉強したり活動したりすることの意味がここにあるわけです。だから学校に来るのです。

シナジーだけではありません。4年生は第4の習慣「Win-Winを考える」を意識して2学期を頑張ってきたということです。「Win-Win」は「相手のことはやっつけて、コテンパンに負かして、自分だけよければいい」という考え方とは正反対の考え方ですね。ですから、いつでも「Win-Winを考える」ことを習慣にして生活しようとしてきた4年生は、友達に対して優しくなった人が増えたはずだと信じたいです。

マラソンの取り組みでは、全校生が第1の習慣「自分で考えて行動する」や第2の習慣「ゴールを決めてから始める」を意識して、去年までの自分とは違う気持ちでつらいマラソンだけれども頑張っ取り組んだ人も多かったのではないかと思います。

ですから、校長先生が「庭坂小の276名は、自分の中にいるリーダーに言い聞かせて、いい習慣を發揮して生活しようと頑張りました」ということを、ある人に伝えたら・・・

イチタさんじゃなかった、ニイタさんでもなかった、サンタさんから、みんなにこんな素敵なプレゼントが届きましたあ！

靴下には入りきらないので、袋ですよ。そして、この中にはザザァ、ほら、こんなにたくさんのお菓子や文房具、水分補給のできる水筒もありますよ！

これほしい人？

じゃあ、ほしい人は校長先生とじゃんけんをして、勝ったら・・・なんてケチなことはサンタさんは言わないんです。安心してください、全員分ありますよ！

実は、これは、リーダー・イン・ミーの考え方に賛成する会社の人たちがお金を出し合って、7つのいい習慣を身につけて、正しいほうを選べる強い自分になろう、友達にやさしくできる人になろうと頑張っている子供たちへと贈ってくれたプレゼントです。

終業式の後、校長室入り口でクラスごとに配りますから楽しみにしててください。そして、感謝を忘れず受け取ってほしいです。

では、明日からも、これまで以上に、7つのいい習慣で生活しようと心掛けて過ごしましょう。

終わり！